

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 復興支援 - 27

学校名・団体名	熊本市立長嶺中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	「なんじゃもんじゃ緑化ウォークラリーコース」の整備

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 目的

本校シンボルツリーである「なんじゃもんじゃの木」（大楠）を中心とした緑化スペースの拡充を図り、地域にひらかれた潤いのある環境づくりの推進を図ることで震災復興とともに日々の暮らしの中に楽しみを見出せるような生徒を育成する。

2 具体的な実践

(2) シンボルツリー「なんじゃもんじゃの木（大楠）」周辺の整備



本校のシンボルツリー「なんじゃもんじゃの木」周辺の清掃をサッカー部を中心とした部活動生、花植え・水やり活動を緑化委員会が毎日取り組んでいる。また、美術部が看板・樹木札等を設置した。全校生徒は、花と潤いのある環境の中を登校することができている。

(1) 彩りスペースの整備



緑化委員会では、「なんじゃもんじゃの木」周辺を「彩りスペース」と名付け、季節の変わり目に花を植え替えたり、花壇整備等の整備に取り組んでいる。また、グリーンカーテンを設置し、アサガオやゴーヤを植えて緑いっぱいの環境づくりに取り組んでいる。

緑化環境の整備を進めることで、生徒は興味・関心を高め、主体的に活動する姿が見えた。

(3) クイズ樹木札の設置



美術部では、全校生徒が興味を高めるような樹木に関するクイズを樹木札として作成し、校内の樹木に設置した。生徒・保護者・地域・散歩をされる方々等が樹木の前で立ち止まる姿が見れ、樹木に関する興味・関心を高める取り組みとなった。

(4) 福島県南相馬市からののざる菊



美術部では、福島県南相馬市の山遊倶楽部からざる菊の苗をいただき、夏休み中の水やりと花の植え替え等を行った。彩りスペースや昇降口付近には、きれいに花が咲き、生徒の心の潤いになるものであった。12月には、お手紙でお返しをし、震災復興に向けて取り組んでいる。

(5) 緑化活動について



生徒たちは、種まきからの草花栽培、校区内の小学校へのフラワープレゼント等、環境緑化活動を充実させることができた。きれいに整備された環境で生徒は登下校ができるため、学校全体が潤いのある環境づくりにつながっている。

4 成果

(1) 生徒について

- ・生徒が主体的に緑化及び清掃活動取り組むことができたため、自己肯定感や自尊感情が高まった。
- ・潤いのある学習環境で生活することで落ち着いた行動を取ることができるようになった。
- ・市学校環境緑化コンクールに参加し、全校で取り組みを進めたため、生徒の関心が高まった。

(2) 保護者・地域について

- ・PTAが主体となり、校内除草活動を充実させることができたので環境整備が推進した。
- ・緑化活動に関する取り組みを学校だより等で啓発することで、地域にひらかれた潤いのある環境づくりの推進が図られた。
- ・散歩や来校される地域の方々へ震災復興とともに暮らしの中に見出せる環境改善が図られた。

(3) 教職員について

- ・夏休みの水やりや清掃活動等、年間を通した緑化活動に組織対応で取り組むことができた。
- ・緑化活動等を通して教職員と生徒との信頼関係が深まり、潤いある環境づくりの推進につながった。